

2018年8月3日（金）10:30～12:00

京都市子ども若者はぐくみ局 子ども若者未来部（育成推進課）
中京区烏丸通御池下る虎屋町 566-1 井門明治安田生命ビル 3階

・目的： プレパパ（第一子・妊娠5か月まで）調査ご協力の依頼

★「京都市は妊娠初期からの子育てを応援しています」と母子健康手帳に明記があります。

まちづくりは、人づくりからといわれますが、

日本胎教協会は、妊娠初期からの子育て支援の充実をサポートし、

出生率アップ、心豊かな社会を目指しています。

★社会実装 → みんなの幸せ、社会課題の解決（京都大学 大学院 教育学研究科 明和政子先生研究室）

★理想論、イメージだけでなく、頭の固い人たちも突破するためには、

科学的根拠が必要な場面がある → みんなの幸せ、社会課題の解決（日本胎教協会）

★妊娠初期からの子育てを応援 → みんなの幸せ → 社会課題の解決（京都市はぐくみ局）

★ひと・まちづくり → みんなの幸せ、社会課題の解決（京都市総合企画局）

↑ 山村提案：京都市発信でブランド化

・集まってくださったメンバー

【京都大学 大学院 教育学研究科】

明和政子先生（京都大学大学院 教育学研究科 教授、東大客員教授、科学者）

田中友香理先生（京都大学大学院 教育学研究科 教育方法学講座 特定助教）

フランソワ氏（研究員）

松永氏（博士後期課程1年）

【京都市子ども若者はぐくみ局】

大泉清貴部長、課長、係長（保健師）

【京都市総合企画局】

坂巻係長、牧野杏美様

【日本胎教協会】

一人ひとりのおなかの赤ちゃんとその家族への思い、未来…を、必要な方へ届けます。

山村尊子（代表理事）、龍和（発起人、書道家）

■ お話：山村尊子（日本胎教協会 代表理事）

【 はじめに 】

・「京都市は妊娠初期からの子育てを応援しています」と母子健康手帳に明記されている。
現実ならば、社会課題（孤立育児、虐待、少子）の解決につながると考えている。

【 背景 】

・おなかの赤ちゃん、妊婦さんを取り巻く現状
(2017年メディアで話題：2014年までの妊産婦さんの死亡原因1位は自殺。
妊婦さんの心、メンタルケアに関しては、行政、医療からすっぱり抜け落ちてしまっている)

【 そのような背景を受けての動き 】

- ・厚生労働省、各自治体、京都市は？ ※当然これまで通りの動きでは通用しない！違う手法、制度を要する！
- ・明和政子研究室の紹介
- ・日本胎教協会のこれまでの動き
- ・プレパパ募集ご協力をする京都市はぐくみ局側のメリット

■ お話：はぐくみ局 係長（保健師）

- ・母子保護法に基づく母子健康手帳配布の現況報告（係長、保健師）
- ・母子健康手帳を配布時、妊婦さんからヒヤリングを実施し、その際に、ヒヤリングを行っている。
問題がありそうな妊婦さんには、保健師の訪問がある

↑

明和政子先生より、対応によっては逆効果になることもあることを指摘される。

山村所感：妊婦さんに必要なのは、保健師の訪問ではないのでは？場合によっては、パートナーの親性の醸成をサポートしたり、パートナーとの関係をよくしたり、よい胎教（日本胎教協会の定義：おなかの赤ちゃんによい環境づくり）を妊婦さんとそのご家族に届けることが必要なのでは？

■ お話：京都大学 教育学研究科 田中友香理助教

- ・プレパパ募集の詳細
- ・プレパパ募集の補足（京都大学 大学院 教育学研究科 明和政子教授より）
- ・質問タイム

■ 明和政子先生お話

- ・妊婦さんに実施されているヒヤリングからあやまったアプローチによりかえってわるい方向になっている場合があること、たとえばカウンセリングは近年否定されはじめています。現場の再教育が必要なこと
- ・目指す方向：京都市発信で出生率アップ！まちづくりはひとつづくりから、京都市全体の活力アップにつながる！

【 配布 】

- ・プレパパ募集ご案内：明和政子研究室（責任者：京都大学 大学院 教育学研究科 教授）
- ・日本胎教協会ニューズレター「HippocratesNo.1」「HippocratesNo.2」

【 結果 】

母子健康手帳の配布時に挟み込み配布は難しいが、母子健康手帳配布の際、見える場所にご案内を置くことが可能

資料

- ・明和政子研究室（京都大学 大学院 教育学研究科）
- ・妊婦ケアが行政にも見過ごされてきた理由
- ・妊娠・出産包括的支援モデル事業の取り組み事例集
- ・平成 28 年度子育て世代包括支援センター事例集
- ・妊婦の精神疾患「早期ケア」必要
- ・周産期のこころの医療の課題（三重大学 保健管理センター 岡野禎治）